令和７年(2025年)６月４日
長 野 県 農 業 試 験 場

病害虫発生予察特殊報　第１号

作　　物　　名：カーネーション

病　　　　名：カーネーションべと病

病　　原　　菌：*Peronospora dianthicola* Barthelet

１　発生確認経過

令和７年４月、東信地域のカーネーション栽培ほ場において、葉に輪郭が不明瞭な黄斑が発生し、生育不良となる障害が発生した。症状や病原体の特徴から、べと病が疑われたため、名古屋植物防疫所に同定を依頼したところ、*Peronospora dianthicola* Barthelet による病害であることが確認された。

本病は、海外においては、中国、イスラエル、トルコ、ギリシャ、イタリア、ポーランド、イギリス、デンマーク、フランス、スウェーデン、スイス、アメリカ、コロンビアからの報告がある（2022年11月現在）。

日本においては、2011年に北海道で発生が確認されている。本県での発生の確認は初めてである。

２　病徴及び被害

罹病株は、葉に輪郭が不明瞭な黄斑が生じ（図１）、生育不良となる。多湿環境下では、病斑上に白色～灰褐色の霜状のカビを生じる（図２）。また、病葉内には黄褐色の卵胞子を形成する（図３）。卵胞子は土中で越冬し、第一次伝染源となる。

生育初期から罹病した株は、節間が詰まり、草丈が伸びず、健全株と比較して著しく生育が悪くなる（図４）。

３　防除対策

（１）無病苗を用いる。海外では本病が広く分布しているため、輸入苗を使用する際は注意する。
（２）発病株は抜き取り、ほ場外に搬出して、焼却するなど、適切に処分する。
（３）本病に対して登録のある薬剤があるので散布する（表参照)。農薬を使用する際は、必ず農薬ラベルの記載事項を確認し使用する。

４　その他

本病が疑われる症状を見つけた場合は、農業試験場病害虫防除部または最寄りの地域農業農村支援センターに連絡する。

図１　罹病葉の黄斑

図２　病斑上に形成された霜状の菌そう

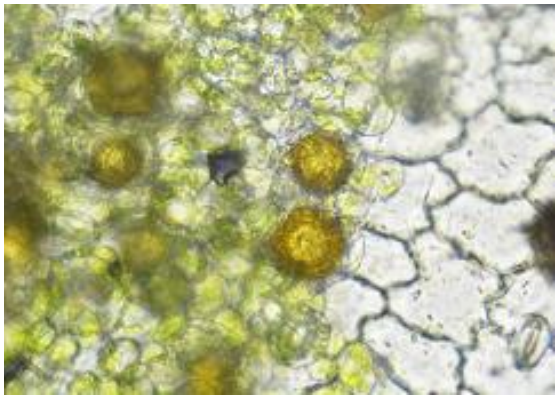

図３　病葉組織内に形成された卵胞子

図４　罹病し著しく生育不良となった株

※　図２は「農林水産省名古屋植物防疫所」写真原図提供。写真の無断転載を禁ずる。
　　図３は「長野県野菜花き試験場」提供。

表　カーネーションべと病に対する登録農薬（令和７年６月１日現在）

農薬名	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法	FRAC
ジマンダイセン水和剤	400～600倍	100～300L/10a	―	８回以内	散布	M3
エムダイファー水和剤	400～650倍	100～300L/10a	発病初期	８回以内	散布	M3

(問合せ先)
担　当　病害虫防除部
電　話　026-248-6471
ﾌｧｸｼﾐﾘ　026-248-6473
電子ﾒｰﾙ　bojo@pref.nagano.lg.jp